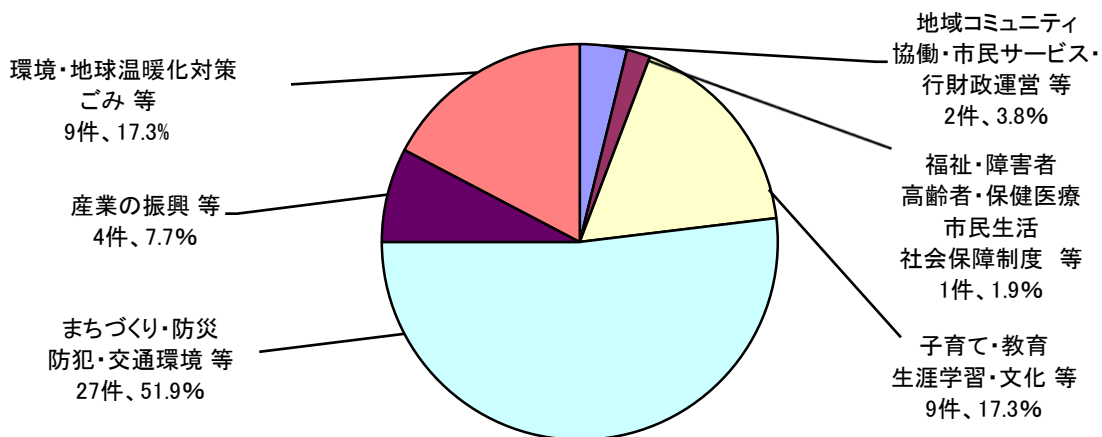


平成 28 年度「市長と語る」の提案等取り組み状況

平成 28 年度「市長と語る」開催実績

開催日	会場・メインテーマ	地域	地区	延べ参加者数 (人)	発言者数 (人)	発言項目数 (件)
5月14日	大横保健福祉センター 「中心市街地の活性化と 八王子のまちづくり」	中央	本庁	90	9	10
5月28日	恩方市民センター 「恩方地区の地域づくり」	北西部	加住川 元八王子 恩方 川口	83	9	12
6月18日	由木中央市民センター 「由木地区の地域づくり」	東部 東南部	由木東 南大沢 由井 北野	71	8	14
6月25日	エスフォルタアリーナ八王子 「浅川・館・横山地区の 地域づくり」	西南部	浅川 館 横山	127	10	16
合計				371	36	52

市政への要望項目別件数



次ページから、平成 28 年度の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況の一例をご紹介します。

平成 28 年度の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取り組み状況について

＜意見＞ 緑化フェアについて

「全国都市緑化はちおうじフェア」において、メイン会場の富士森公園とを結ぶサテライト会場として、八王子駅から西放射線ユーロードを花と緑で飾るという計画はあるが、京王八王子駅前からJR八王子駅までのアイロードも花と緑で飾る計画になっているのか。

また、フェア終了後は何も残らないのか。 (上田 幸夫 様)

＜市長発言（当日）＞

京王八王子駅前と東放射線アイロードの沿道については、「全国都市緑化はちおうじフェア」を盛り上げるために、何らかの取り組みをしていきたいと考えている。スポット会場は、地域が主体となって道路や店先等を活用して新たな花の名所づくりをしていくというもの。是非、周辺の町会や商店街の皆さんにも参加していただき、盛り上げていきたい。

また、メイン会場等でプロのガーデナーの指導のもとに、市民の皆さんと協働で花壇づくりを実施することになっている。多くの市民の方々にガーデニング技術の習得、あるいは花を育てる楽しみを知っていただき、フェア終了後は自主的に活動していただけるような取り組みも構築していきたい。

【その後の対応】

京王八王子駅前から東放射線アイロードの沿道については、地元町会等が街路樹下に花の苗を植える活動を実施しており、28年度は、マルベリーとちの木花づくり会が育てた花の苗を活動団体へ提供した。29年度は、より一層活動が促進されるよう、引き続き、マルベリーとちの木花づくり会が育てた花の苗を活動団体へ提供するとともに、スポット会場へ登録するよう働きかけを行う。

また、29年度には、フェアメイン会場等で行う市民協働の花壇づくりにより、参加者のガーデニング技術が高まることと思われ、フェア後も活動が継続するようしていく。

<意見> 消防団員の活動と団員不足について

消防団第一分団は、八王子駅周辺の市街地や南口の住宅地を担当しているが、団員が不足している。昼間の火災では、団員が集まらず現場に行けない時もある。これは団員にサラリーマンが増えていることもあるが、団員そのものが少なくなっているのが一番の原因である。自分たちでも勧誘を行っているが、なかなか思いどおりにいかない。

そこで、もっと消防団の宣伝をして、団員が集まるような対策をしてもらいたい。

(川出 勇 様)

《市長発言（当日）》

現在、本市消防団員の定数に対し、充足率が 90%を割り込んでいる状況。市内在住者という入団要件を、28 年 4 月 1 日から緩和し、市内在勤、在学者も入団可能とした。団員の定年についても必要に応じて無期限で延長できるようにした。

引き続き「広報はちおうじ」やホームページ、フェイスブックを活用するほか、ケーブルテレビにも協力をお願いして、積極的にPRしていきたい。

他自治体では消防団員になると商店の割引が受けられる取り組みをしているところもある。これから団員の福利厚生も更に充実をさせ、団員確保につなげていきたい。

【その後の対応】

「広報はちおうじ（11 月 15 日号）」での消防団特集の掲載や、ケーブルテレビに消防団長が出演（年末年始放映）するなどし、消防団を幅広くPRしている。また、団員の福利厚生の充実を図るため、事業所等が八王子市消防団員やその家族に対して一定のサービスを提供していただく、「八王子市消防団応援の店」事業を 28 年 11 月から開始した。

自分たちのまちは、自分たちで守る
消防団員を募集

日夜、無休で活動し防災活動に携わる消防団員中心になって
 いるのは、市民生活の安全を守るために、団員は防災活動中、地味
 の安全安心のため、力をお貸しください。問い合わせは防災課
 (☎507208 番626127)へ。

消防団員を募集

消防団員は、自分たちのまちは、自分
 たちで守るという専ら愛の精神に基づ
 づき、地域の安全を支えています。災
 害発生時には、いさぎよく出陣し、火
 け、洪水、地震、台風、大雪などの災害
 へ、市民生活や財産の保護、人命の救済
 のため、無休で活動し、市民生活の安全
 を守るための活動を行っています。

任意の安全を守るリーダー

本市の消防団は、12 消防団団員が
 市内全域に配置され、約 140 名の
 団員が活躍しています。消防団員は、
 消防団員としての誇りを胸に、

消防団員は、自分たちのまちは、自分
 たちで守るという専ら愛の精神に基づ
 づき、地域の安全を支えています。災
 害発生時には、いさぎよく出陣し、火
 け、洪水、地震、台風、大雪などの災害
 へ、市民生活や財産の保護、人命の救済
 のため、無休で活動し、市民生活の安全
 を守るための活動を行っています。

女性や子育て世代の活動

分団のほかに次の様に活動も
 活発に行っています。

- 女性隊 女性のみで構成し、防災活動や広報活動を行っています。
- 子育て世代の活動 子育て世代の団員が中心となり、防災活動や広報活動を行っています。
- 高齢者の活動 高齢者の団員が中心となり、防災活動や広報活動を行っています。

任意の活動の場

消防団員は、自分たちのまちは、自分
 たちで守るという専ら愛の精神に基づ
 づき、地域の安全を支えています。災
 害発生時には、いさぎよく出陣し、火
 け、洪水、地震、台風、大雪などの災害
 へ、市民生活や財産の保護、人命の救済
 のため、無休で活動し、市民生活の安全
 を守るための活動を行っています。

「消防団応援の店」登録店を募集

地域のた
 めに活動す
 る消防団員
 を応援する
 ため、「消防
 団応援の店」
 事業を開始
 しました。こ
 れは、登録店が消防団員に割引
 などのサービスを提供するもの
 です。消防団員の福利厚生を充実
 し、入団を促進することで、地域
 の防災力向上を図ります。

そこで、この事業に協力いた
 だける店を募集します。登録店
 は、店舗表示とともに、市のホーム
 ページで市民の皆さんに紹介
 します。詳しくは防災課までお
 問い合わせください。

《平成 28 年度「広報はちおうじ」11 月 15 日号掲載》

＜意見＞ 恩方のブルーベリーを広報はちおうじで紹介してほしい

恩方のブルーベリーを「広報はちおうじ」で紹介してほしい。恩方のブルーベリーの特性は、畑の土がブルーベリーの生育に適していることと特殊な剪定をしているので、つぶが大きく、甘くて、美味しい。

ブルーベリーは農業の6次産業（生産と加工と販売）がしやすい作物。恩方にとっては非常に有望な作物なので、広報で紹介していただけたらと思う。 (中村 貞夫 様)

＜市長発言（当日）＞

都市農業を振興するうえで、6次産業化は重要。平成27年度から、サイバーシルクロード（市内の中小企業等を支援する団体）で農業に光を当て、商品の開発を進めている。これからもブルーベリーの活用について、さまざまな産業支援機関との連携を深めながら支援を進めていきたい。

「広報はちおうじ」でこれからも取り上げていきたい。また、「全国都市緑化はちおうじフェア」では「夕やけ小やけふれあいの里」への来場が見込まれる。機会をとらえ積極的にPRの支援をしていきたい。

【その後の対応】

22年から「広報はちおうじ」を活用し広く周知しており、28年度も7月15日号に写真付きで紹介した。



大粒で、強い甘みが特徴

恩方でブルーベリー摘み

7月下旬から9月中旬にかけて恩方地区の農園でブルーベリーの摘み取りを楽しむことができます。時間は午前8時から午後4時まで、費用は100gあたり180円です。詳しくは市のホームページをご覧ください。

問い合わせは農林課(☎620・7250、☎627・5951)、またはJA夕やけ小やけふれあいの里直売所(☎652・4184)へ。

＜平成28年度「広報はちおうじ」7月15日号掲載＞

<意見> 小津のまちづくりについて

小津町は、他の市街化調整区域と同様に、少子高齢化、過疎化が進んでいるなか、「現在の自然あるいは住んでいる環境は残しながら、地域にある魅力を活かしたまちづくりをしよう」をスローガンに市街化調整区域のまちづくりを進めている。行政や専門的な経験や知識を持った人のアドバイスをいただき、そろそろ、実行に移そうというのが今の状況。私たちが進めていることを含めて市街化調整区域の活性化と、それに対する市長の思いを聞かせてほしい。また、貴重な資源があっても、外部に発信することが難しい。是非、市のホームページなどで、まちづくりに関する情報を発信できるようなものをつくってほしい。 (前原 教久 様)

《市長発言（当日）》

西部地域の集落は、若年層の人口減少などにより、地域コミュニティの衰退が懸念されていることから、中核市としての権限を活用して、新たな土地利用制度を創設した。この制度については、東京初の取り組みで、「沿道集落地区まちづくり計画」を策定することで、地域住民主体の創意工夫によるまちづくりが可能になる。市も町会の皆さんと地域にふさわしいまちづくりを検討しているところ。制度に即したまちづくり計画を策定し、他の地域から人をひきつけ、定住人口の維持と交流人口の増加を図り、地域の活力向上につながるようなまちづくりを実現していきたい。

地域にスポットを当てながら、観光資源を掘り起こし、地域の魅力発信を行っていきたい。

【その後の対応】

沿道集落地区における住民主体のまちづくり支援業務を通じ、地域でワークショップ等を行う勉強会を開催し、沿道集落地区まちづくり計画の策定に向けて取り組んでいる。29年度以降も継続的に取り組む予定。

<意見> 子供達が安全に通学できるまちづくりについて

私たちの住む地域には小学校がなく、子どもたちは、交通量の多い野猿街道と多摩ニュータウン通りの大変危険な横断歩道を渡り、駅向こうの 30 分以上かかる小学校に通っている。

また、近所の友達とも通う小学校が違うため、是非、小学校の新設をお願いしたい。それが難しいならば、せめて学区の見直しや交通量の多い大栗川北交差点と大栗川南交差点に歩道橋の設置をお願いしたい。

費用や震災対策により設置が難しいのであれば、せめて大きな交差点に歩車分離式の導入をお願いしたい。

(丸山 直実 様)

《市長発言（当日）》

小学校の新設については、通学区域内の子どもが増え、教室の不足が予想される場合は、校舎を増築して、子どもたちの学習環境を整えている。また、大規模な開発などによって、急激に児童数の増加が予想される場合は、近隣校等を考慮したうえで新設校の設置を検討することもあるが、現在、由木地区では、そのような状況ではないと判断している。

「歩車分離式信号機」は、交通管理者である警視庁に対して、通学路や幹線道路の交差点に増設するよう要望をしている。警視庁でも、安全面で大きな効果を認めているが、交通量が多い幹線道路の場合には、渋滞が発生し、周辺の道路が「抜け道」として利用され、事故につながる危険性もある。そのため、「歩車分離式信号機」の設置は、当面、見送らざるを得ないという判断がある。

【その後の対応】

子どもの事故防止のため、通学路については、歩車分離式信号機の設置も含めた交通安全対策を、今後も警察署に要請していく。南大沢警察署には、当該の道路、交差点における登下校時の児童の安全確保について要請した。

＜意見＞ 歴史・自然（巨樹・野鳥）を活かしたまちづくりについて

東京都埋蔵文化財センターには、3万2千年前の八王子松木遺跡から出た石器や、南大沢 205 遺跡の縄文土器が素晴らしい形で復元されている。堀之内からはヒスイが出土している。子どもたちに5千年前の堀之内人が使っていたものなどの話を資料館や地元でしていただくと、教育効果があると思う。

また、学校、駅、公園等に、昔はこういうものがあったとわかるようにしていただけると、子どもたちは歴史上のつながりがわかり、私たちの命が未来へつながるのだと実感してもらえるのではないか。是非、イベント、実物展示をお願いしたい。

（武藤 真啓 様）

＜市長発言（当日）＞

多摩ニュータウン地域の大規模開発にあたり、縄文時代を中心に多くの土器や石器などが発掘され、東京都埋蔵文化財センターに保管されている。

ご紹介のあった石器やヒスイなどの出土品は、多摩ニュータウンの代表的な出土品として展示・紹介されているところだが、郷土資料館では同センターから借用し、特別展などで展示することを企画していきたい。

また、出土品や遺跡について、市の文化財に指定されているものは、現地に説明板を設置しているが、指定のないものは、数多く存在することから表示はしていない状況である。

なお、市制 100 周年に向け、本市の自然や歴史、伝統文化を改めて調査研究し、『新八王子市史』を編さんしている。授業で活用してもらうために市内小中学校へ配布しているほか、市役所などで販売をしている。

【その後の対応】

郷土資料館で開催した「掘りおこされた八王子の歴史展」にて松木にあった多摩ニュータウン 402 遺跡で発掘された旧石器時代の石器や本市を代表する縄文時代や中世の遺物を展示した。



<意見> 599MUSEUMの運営について

高尾599ミュージアムの展示スペースの大半を占めているアクリル詰めの植物標本には、植物の科名すら書いていない。また、高尾山は、自然の宝庫として有名で、なぜ高尾山の自然が守られてきたのかについてなど「高尾山の良さ」が、現在の展示では説明されていない。都から市に移管された博物館であるのならば、もう少し科学的なことを行ってほしい。

(吉澤 常雄 様)

《市長発言（当日）》

高尾599ミュージアムは、博物館機能をあわせ持った観光施設で、高尾山の観光、学習、交流の拠点として、高尾山の自然や歴史をわかりやすく展示し、学習活動のきっかけを支援するとともに、人々の交流とにぎわいを創出することを目的としており、アンケート結果からも9割以上の来館者から好評いただいている。企画展や自然と触れ合えるイベントの実施、また、学芸員を中心とした展示解説員の充実など、観光や学習・教育機能の強化を図りながら、「世界に誇れる高尾山の自然」についても十分に考慮していきたい。

【その後の対応】

学芸員・インタープリター（自然と人との「仲介」となって自然解説を行う人物）等による高尾山の自然ミニトークショーの定期開催、展示解説ボランティアの配置など、展示・解説機能の拡充を図った。

<意見> 高尾山山域のアミューズメント化について

高尾山山域は、近年、登山客の増加に伴い薬王院境内に客寄せ的な施設がひしめき、信仰の山としての面影は皆無になった。加えて高尾山山域には無いはずの植物が人工的に植栽されている。観光客誘致には成功したが、オーバーユースという問題が起きている。市としても将来の高尾山のあり方についてそろそろ検討する時ではないか。世界に誇れる自然の宝庫・高尾山のあるべき姿を市民みんなで考えてみてはどうか。

(吉澤 常雄 様)

《市長発言（当日）》

高尾山は、本市の重要な観光資源。しかし、近年は、観光客や登山客が増加し、登山道の混雑や自然環境への影響があることは認識している。平成 28 年 3 月には都市計画の方針を策定し、その中で観光ルートの多様化・分散化を図り、自然環境への負荷を減らす方向性を示しているところ。また、観光客へは、高尾山の自然環境の保全への意識をもって登山を楽しんでもらうため、登山ルールを情報発信している。さらに、高尾山は多様な動植物が生息する、貴重な生態系を有した地域であり、都立の自然公園なので、都の自然保護指導員が中心となって活動している。不法採取や植栽の課題については、都と協力しながら対応にあたっていきたい。

市としては、今後も引き続き観光客誘致に努めるが、高尾山の自然環境への負荷を減らすなどの工夫を行い、自然環境の保全について十分に配慮していきたい。

【その後の対応】

観光客や登山客にはホームページなどで高尾山ルールの周知を行い、自然環境保全の意識を持った登山を呼びかけている。また、高尾 599 ミュージアムにおいても、自然の豊かさや登山ルールを子どもも楽しめる形で展示しているほか、京王電鉄と協働で高尾山ルールを電車内広告の形で周知するなど、様々な形で情報発信を行った。